

# 淡路島に新種の恐竜化石

## 「ヤマトサウルス・イザナギイ」命名

兵庫県立人と自然の博物館(三田市)などの研究グループは27日、2004年に洲本市で見つかった鳥脚類恐竜の化石について、長く平たいカモのようなくちばしを持つ植物食恐竜ハドロサウルス科の新属新種だと判明したと発表した。淡路島が神話で日本誕生の舞台とされることにちなみ「ヤマトサウルス・イザナギイ(伊弉諾の倭竜)」と命名した。(斉藤絵美)

### 04年洲本で発見

洲本市で化石が発見されたヤマトサウルス(左)と、同時代の北海道に生息していたとされるカムイサウルス(右)の復元画(©服部雅人)



動画はコチラ

## 体長8メートル、7200万年前の草食竜



洲本市で2004年に見つけた新属新種の恐竜について説明する北海道大の小林快次教授(左)と発見者の岸本眞五さん(右)＝神戸市中央区下山手通5、兵庫県庁

国内で発見され学名が付いた恐竜は、北海道産で19年に命名された同じ科の「カムイサウルス」以来で9例目。関西での新属新種の発見は、06年に丹波市内で見つかった以来2例目という。

化石が見つかったのは、洲本市内にある白亜紀最末期(約7200万年前)の地層で、当時は海底だったとみられる。化石の大きさをから頭から尾まで7メートル、体長4メートルと推測される。

04年5月にアマチュア研究者で兵庫古生物研究会代表の岸本眞五さん(72)姫路市が下あごの一部(長さ53センチ)とみられる化石を発見。同博物館との共同研究によって、歯や尾の骨など計23点が出土した。

歯列の特徴から新属新種と判明。世界各地で見つかった70種のハドロサウルス類と比較したところ、ヤマトサウルスはハドロサウルス科の中でも原始型で、肩の骨部分が未発達なことから、二足歩行だったとみられることも分かった。

ヤマトサウルスの化石は、進化型のカムイサウルスとほぼ同じ年代で、両者が共存していたか、南北ですみ分けていた可能性がある。ハドロサウルス科がアジアで繁栄していた可能性も示唆されたという。

北海道大の小林快次教授(49)古脊椎動物学は「肩や前脚が発達し、二足歩行から四足歩行へ進化したことが、繁栄の鍵となった可能性がある。起源や進化を探る上で貴重な発見」。同博物館の久保田克博研究員(41)は「同種は『アマチュア愛好家による発掘が世界的な発見につながった。今後も連携して研究を進めたい』と話している。

NIEワークシート  
／小学校 中学年～中学校  
／理科、社会、総合

### なまえ

- ①兵庫県立人と自然の博物館などの研究グループは、2004年に洲本市で見つかった鳥脚類恐竜の化石について、何科の新属新種と判明したと発表しましたか。
- ②「ヤマトサウルス・イザナギイ(伊弉諾の倭竜)」と命名された理由を書きましょう。
- ③ヤマトサウルスの化石が発見された地層の年代と体長や体重を推測してみましょう。
- ④ヤマトサウルスの化石の下あごの一部を見つけた岸本眞五さんはどのような人物ですか。
- ⑤国内で発見され学名が付いた恐竜を調べてみよう。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。